

愛される卒業生～自分から挨拶～

本校のアフターケアは、原則として3年間、高等部卒業後の進路先での状況を把握するため、卒業担任を中心とした本校教員が進路先を訪問して見学や聞き取りを行っています。教員にとってこのアフターケアは、卒業生の進路先での活躍している姿を見たり、聞いたりすることができるのでとても楽しい機会の一つとなっています。また、学校の夏休み期間中にアフターケアを実施しているので、小学部や中学部の教員を含めた複数の教員で事業所を訪問することができ、教員が卒業後の生活について学ぶ機会の一つにもなっています。ただ、ここ数年は新型コロナウイルスの影響があり、夏休みの期間にアフターケアを行うことが難しく延期になったり、訪問する人数に制限があったり、電話での状況把握となったりしていますが、事業所と相談しながら可能な範囲でアフターケアを実施しています。高等部を卒業してからも、生徒が自分の力を発揮しながら生き生きと活躍できるように支援を行っています。

そこで今回は、新型コロナウイルスが流行している中でも進路先で仲間や職員の方々から愛され活躍している卒業生たちの共通点をお伝えしたいと思います。

仲間や職員の方々から愛され活躍している卒業生の共通点としてあげられるのは、やはり「自分から挨拶ができる」です。「通所したら大きな声で自分から挨拶してくれます。こちら側も嬉しい気持ちになります。」や、「今でも通所したら必ず自分のところに来て挨拶してくれます。」など、アフターケアで訪問した多くの事業所の方が笑顔で話してくれます。入り口で大きな声で挨拶してから入室してくる人、笑顔でお辞儀して挨拶してくれる人、相手の顔を見て声を出して挨拶してくれる人など挨拶の方法は人様々ですが、自分なりの方法で自分から挨拶することが仲間や職員の方々と良好な関係に結びつき、愛されている秘訣のようです。

少し前の話になってしまいますが、12月に職業意識形成支援のために来校した新卒応援ハローワークの方が、生徒たちの礼儀正しい挨拶を見て「元気な声でハキハキと挨拶ができていて立派ですね」と驚いていました。また、「保護者の方や先生方の挨拶が手本となっているのでしょうかね。社会人でも恥ずかしがったり自信がなかったりして挨拶が苦手な人がたくさんいます。社会人になる前に挨拶をする習慣が身につけていることが大事です。」と挨拶の重要性についての話がありました。挨拶というと「おはようございます。」や「こんにちは。」「さようなら。」といった人と会ったときや別れるときの挨拶が思い浮かびやすいかもしれませんが、挨拶はそれだけではありません。「ありがとうございます。」といったお礼を伝えるときや、「すみません。」と謝るときに挨拶などがあります。「ありがとうございます。」はなんだか恥ずかしくて言えなかったり、「すみません。」は怒られるのではないかと怖くて言い出せなかったりしますが、これらの挨拶も仲間や職場の方々と良好な関係を築くためには、自分から言えるようになる必要があります。「ありがとう」を自分から伝えるようになるには、「ありがとう」と感謝される体験をたくさんすることが一番だそうです。是非、お子さんが家の手伝いを始めた時や、終えた時に「ありがとう」の言葉をあげてください。「すみません」についても同様です。自分の行動を素直に認めることができな

いと「すみません」と謝ることはできません。つまり、自分が認められる体験をたくさんすることが「すみません」と素直に謝る姿につながるそうです。以前、企業の人から「ミスをした人はいないから、その時は自分の行動を認めて伝えてきてほしい。ミスをそのままにすると人間関係がうまくいかなくなる。」といった話がありました。失敗した時の行動もよい意味で認めてあげて、そのうえで望ましい方法を一緒に考えることがその人の成長の機会になり、さらに職場の人たちと良好な関係が築けると教えてくれました。いかに自分から挨拶することが重要なことなのか改めて考えさせられました。

仲間や職員の方々から愛され活躍している先輩たちの姿を目指して、引き続き、学校と家庭が連携しながら取り組んでいきましょう。